



秋はクマに注意！



秋はクマが活発に行動する時期です。宿南地区内にも最近毎日のように出没しています。被害にあわないよう注意しましょう。

【近づけないためのポイント】

- ・ゴミを屋外に置かない
生ゴミはクマを誘引するので、田畑への残飯まきや収穫しない野菜の放置はしない。
- ・食料はクマに気づかれないところに収納
果物、穀物、ペットフード等は厳重に保管する。(納屋・倉庫等戸締りはしっかりと)
- ・果実は早目に収穫
柿や栗は早目にもぎ取る。(販売用等必要な場合は木の根元にトタンを巻くか、電気柵で周囲を囲む)
- ・ヤブや草むらを刈り取る
できる限り刈り取って見通しをよくする。



【出会わないためのポイント】

早朝・夜間は出会う可能性が高いので、外出は控える。
野外ではクマ鈴やラジオ等音の出るものを身に付ける。



もし出会ったら

クマとの距離が **遠い場合**は、大声を出したりせず、落ち着いてその場からゆっくり離れる。
近い場合は、クマに背を向けずにクマを見ながらゆっくり後退する。

クリーン作戦実施

9月26日(寄宮区・町区) 10月3日(川東区・青山区)でクリーン作戦が実施されました。草木も大きく茂り草刈り作業には少々時間がかかりましたが、作業終了後は綺麗になりました。国道312号の空き缶・ごみ拾いでは相変わらずポイ捨てが多かったです。



川東老人クラブ奉仕作業

10月4日(月)早朝より、ふれあい倶楽部周辺の草刈り、草取り作業をして頂きました。大変綺麗になりこの状態が長く保てれば良いのにとおられます。



季節の里山で見られる植物 ⑤

チカラシバ〈イネ科〉

可愛くもなく、美しくもない、そのくせ、そこから中に生息範囲を広げているチカラシバです。名前の由来は、引っ張っても抜けない、ちぎれない、力の強いシバというところから力芝と言われます。在来種で日本全土に生息しています。

道端や原野、耕作放棄地にどんどん広がっています。これもシカが食べないことと、今まであった在来植物がシカに食い荒らされて消滅したことで、広がっていると思われます。

多年草ですから、一度生えると根をしっかりと下ろし、毎年生える上に、たくさんの種が動物の身体に付いて拡散されていきます。

花言葉は「信念」



稲刈り



9月7日(火)小学校田の稲刈りを営農組合の皆さんと宿南小学校3年生5年生の児童で行いました。現在は機械化され稲刈り初体験の児童もあり、稲刈り鎌を使用して刈り取り、束ね方等の指導を受けながら、最後は稲木にかけて終了しました。刈り取りしたお米を食べる日が楽しみです。



お知らせ 10月31日(日)衆議院議員選挙投票日
11月21日(日)小学校学習発表会



草庵先生紹介

日記 32



「鳴鶴相和集」。
草庵が4人の手紙
を書き写し、和綴
じにしてまとめた
濱篤さん作

讃岐(現・香川県)の友人の林良斎が2月に出した手紙を、池田草庵は5月に受け取っている。「林良斎が2月15日と19日に書いた手紙が2通、一緒に届いた。繰り返し何度も読む。喜びで慰められる」(嘉永元〈1848〉年5月28日)今から考えるとずいぶん日数がかかっている。しかし、かかる日数などには関係なく内容はいつも新鮮なのだ。友人からの手紙には、読書のこと、学問のこと、疑問に思うことなどが書かれており、喜びがあると同時に刺激を受けるのだった。草庵は友人からこうした手紙をいつでも手元に置き繰り返し読みたいと考えた。それで自分からの手紙も付け加えて往復書簡集としてまとめることにした。それを「^{めいかく}鳴鶴相和集」と名づけた。「鶴」を題名に使っているが、草庵は鶴に親しんでいた。「鶴」という漢詩も書いているほどだ。ただし、これらの鶴はコウノトリだと思われる。青谿書院の周辺には、コウノトリが時折、飛んで来ていて、それを鶴と呼んでいた。嘉永2(1849)年4月19日の日記に「今日、『鳴鶴相和集』のあとがきを書き、それを清書する」と書き、そのあとがきには次のように書いている。

「吉林春池の4人の往復の書簡合計11編、私が順序立てて配列した」

吉林春池の4人とは、広島吉村秋陽と讃岐林良斎、京都春日潜庵、それに但馬の池田草庵自身である。いずれも著名な儒学者であった。これらの手紙を草庵が筆写してまとめ、「鳴鶴相和集」として友人たちの手元にも送った。あとがきでさらに、次のように言う。「日陰にいる鶴は、群れを離れて1人で住んでいるように見える。しかし、志があればみんなと心が通じるものが必ずある。山陽と山陰、南海と京都とは、道は遠く数千里も隔たっているが、志や精神は通じあい、1人が唱えれば別の人が応えるだろう。この書簡集をそれぞれの座右に置いてほしい。また、群れを離れて1人寂しく住む者のこころの慰めにもなるだろう」現在のように瞬時につながるネットワークではないが、山陽と山陰、四国、京都とを結ぶ志を同じくする者のネットワークが山間の青谿書院を中心にして作られていた。

池田草庵先生に学ぶ会